

[別紙 2]

論文審査の結果の要旨

ほう せい
申請者氏名 方正

中国では経済成長に伴い、農業労働力の農外産業への流出が進み、耕作放棄地が発生している。耕作意欲の衰えた小規模な農家の農地を流動化させ、大規模経営の形成を推進することが政策課題となっている。本論文は、中国における農地流動化と大規模経営の展開について政策史の整理を行った後、主要な食料生産基地である安徽省肥西県の現地実態調査に基づき、安定的な農地供給層の形成条件、農地の団地化が実現されるルート、団地借地を通じた大規模経営が展開するための条件とその経営的な優位性を解明した。

第1に、改革開放以降、20数年間にわたって実施されてきた農地流動化の促進と大規模経営の育成に関する政策を、探索期（1985－1991）、整備期（1992-2002）、法制化推進期（2003-現在）の3つに区分して整理を行った。2003年以降、中国では農地流動化と大規模経営の展開に関する法律の整備が行われ、2008年の『農村改革発展を促進する過程における若干の重大な問題に関する決定』（中国共産党17期3中全会の報告）を受けて農地流動化の進展と大規模経営の展開が進んでいる。そこでは農家請負経営制度による零細な農地が分散している状況を解決するため農地を団地化して貸し付け、大規模経営の形成を促進する動きが広がっている。

第2に、安徽省肥西県における農家調査結果に基づいて農地供給層の形成条件が明らかにされた。農業労働力の流出と農地流動化政策によって農地貸出面積は増加しているが、必ずしも契約期間は長期ではなく、安定的な農地供給層の形成とはなっていない。農家の貸出行動は農家世帯員の年齢構成と家族員の就職構造によって基本的に規定されており、安定的な農外就業の実現が農地の長期貸出にとって重要である。特に就業条件の劣る40代の世帯員に対する職業訓練が求められている。

第3に、貸出農地の団地化に関する事例の分析を行った。貸出農地の団地化には、土地整理事業によって整備された農地を村民小組単位でまとめるルートと、村が土地流動合作社を設立し、農地交換によって団地化を実現するルートの2つがある。事例分析から、ともに農地の借り手は入札方式で募集され、団地化された農地に支払われる地代水準は上昇し、農地を貸し出す農家の利益は増加していることが明らかになった。土地整理事業には予算の制約があるが、農家の側には農地を団地化して貸し出すことには地代増加というメリットがあるので、今後は後者の土地流動合作社を通じた団地借地の増加が見込まれる。

第4に、食糧生産大規模経営の形成条件と経営構造の分析を農家調査結果に基づいて行った。そこでは次の3点が明らかとなった。(1) 団地借地が大規模経営の形成にとって決定的に重要だが、それには上昇した地代の支払い、大面積を耕作するための機械投資、農

地流動化リスク保証金の支払いなど多額の資金が必要とされる。資金力のある農家でなければ団地借地を通じた規模拡大を実現することは難しく、それだけの資金の蓄積が食糧生産大規模経営成立の条件であることが現地調査結果から明らかになった。資金を蓄積していく方法には、通常の農地借入で規模拡大を図って資金を蓄積していく方法、農業生産資材の販売事業を通じた資金の蓄積、食糧販売事業を通じた資金の蓄積、それ以外の自営業による資金の蓄積の4つがある。そのため大規模経営の多くは「能人」と呼ばれる農村地域の富裕層にその出自を求めることができる。出稼ぎなどで世帯員全員が働いて得た資金をプールして団地借地による大規模経営に成長した事例も現地調査で確認されたが、規模拡大の速度は遅い。(2) 団地借地によって形成された500ムー以上層の大規模経営と分散借地によって形成された500ムー以下層の大規模経営の間には明確な生産力格差が形成されていることが明らかとなった。分散借地での規模拡大は500ムーが限界で、それ以上の規模になると自己所有機械では対応できず、機械作業を外部に委託せざるを得ず、逆にコストが上昇してしまう。この問題を解決するには、機械投資のための資金を蓄積して団地借地による規模拡大に転じる必要がある。同じ経営面積規模でも分散借地と団地借地とで経営効率に違いがあることも農家調査結果から明らかになった。(3) 1000ムー以上の大規模経営は家族経営ではなく、雇用労働力に依存した経営となっており、経営の持続可能性はそうした雇用労働者の確保にかかっている。分析結果によると、現時点では非常に高い収益を実現しており、今後の労賃上昇にも耐えうるものと結論づけた。ただし、大規模経営は政府から機械投資に対して多額の補助金を受けているため、農産物価格が低落すれば補助金への依存度が高まり、政策依存の経営体になってしまう恐れがある点に注意する必要がある。

以上、本論文は詳細な農家実態調査に基づき、特に団地借地を通じた大規模経営の形成過程とその経営実態を明らかにすることで、統計だけでは把握することのできない現段階の中国の農業構造変動の内実を正確に把握、分析した。この分析成果は、学術上、応用上資するところが少なくない。よって審査委員一同は、本論文が博士（農学）の学位論文として価値あるものと認めた。